

## 小児科だより vol.32

### 花粉症の舌下免疫療法 パート2

2019.4.1 発行

こんにちは。暖かい日が徐々が増えてきており、この便りが皆様のもとに届くころには桜の季節が到来し、新入園や新入学といったシーズンに入っているのではないのでしょうか。

さて今月の小児科だよりは、この時期に外来を受診される方も多し、花粉症（季節性アレルギー性鼻炎）に対する、舌下免疫療法についての続編です。昨年5月号に同様



のタイトルでパート1を書いておりますので、詳細については病院ホームページや小児科外来受付から、過去の小児科だよりを参照して頂きますと幸いです。

パート1で『花粉症とは』、『経口免疫療法とは』について詳しく書かせていただきましたが、その後小児に対して治療適応が拡大されたため、現在当科では大勢のお子さんが実際に治療を行っています。パート2では、治療を行う前や後にいろいろ質問を受けることがあるので、具体的な治療の流れなどに関して書かせて頂きます。

まず、アレルギー性鼻炎（くしゃみ、鼻水、鼻づまり）の原因検索のために血液検査を行い、季節型（スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサなど）なのか通年型（ダニ、ハウスダストなど）なのかを判定します。経口免疫療法は、現在スギまたはダニのみ処方薬が存在しておりますので、他の原因によるアレルギー性鼻炎で苦しんでいる方は、経口免疫療法以外での対応となります。

経口免疫療法は、初回の舌下投与をごく少量から医療機関で開始し、以降自宅で2週間かけて維持量まで増量します。その後、毎日自宅で舌下投与を行い、2-3年以上は治療を継続します。重要なのは、抗アレルギー薬内服といった即効性のある薬とは異なり、アレルギー症状を起こさないごく少量の抗原を体に取り込むことで、アレルギー症状を和らげていく治療になりますので、治療を長く続けていく必要があることです。だいたい毎月一度外来を受診していただき、副作用やアレルギーの診察に加えて、必要に応じてアレルギー症状を抑えるお薬を処方します。舌下投与する薬は無味無臭とされており、現在当科で治療を行っているお子さん（原則5歳以上）は、皆さん治療を継続することが出来ています。

小児科では、小児科に受診歴を持つお子さんをお持ちの親御さんもこの治療の対象とさせて頂いております。治療費など小児とは異なる部分もございますので、興味をお持ちの方は小児科外来にご相談ください。